



# 辻川だより

第67号 [2024 春号] 令和6年3月2日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]  
〒679-2204 福崎町西田原 1228-2  
TEL 0790-22-5763  
HP [http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public\\_html/](http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public_html/)

## 地域のつながりと責任

区長 田崎 正和

昨年12月、老人会と子ども会による鈴の森社合同清掃が行われました。まるで「働き蟻」のような小学生たちの動きに圧倒されながらも楽しいひとときを過ごしました。今、老人会は毎月のお堂（有井堂と山口堂とその脇堂）掃除と年3回の鈴の森の掃除に関わってくださり、宮当番隣保が年間を通して鈴の森社と高藤稲荷社の管理を、そして辻川ボランティアの皆さんが「ふれあい喫茶」の日に鈴の森社境内の掃除を担ってくださっています。各団体の献身的な取り組みにより私たちの社寺が守られてきたわけですが、その維持管理に黄信号が灯り始めました。

鈴の森を年間数回下刈りして下さっていた消防OB会が高齢化により解散が近づき、老人会の入会率は40%を切ろうとしています（特に65歳から70代の男性の未加入が目立つ）。今を生きる私たちに歴史読本8話「鈴の森」にも紹介したように、少なくとも200年前からの歴史が積み重なった鈴の森（辻川）を子孫になく責任があると思っています。年初の能登半島地震被災地からの報道を見聞きして特にその思いを強くしました。

さて、この3月24日には昨秋から延期していた第3回「ぶらり辻川界隈」まち歩きを行います。テーマは「國男少年が見た辻川を歩く」です。おしゃべりしながら一緒に歩きましょう。

## 協議員会の中

12〜2月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。  
① 辻川区内要望書確認  
② 公民館耐震化工事について  
③ 事業所等への協力金等  
④ 辻川区備品点検について  
⑤ ぶらりまち歩きについて  
⑥ 令和6年度総会について

### 【お願い】

お葬式の連絡と、公民館とゴミステーションの掃除について区内の取り決めを次のようにします。ご理解とご協力をお願いします。

【葬式】①遺族は隣保長を通じて区長へすみやかに連絡する。

②区長は関係団体（主に老人会）長に伝え、区民からの問い合わせにも対応する。③区民へのお悔み放送の有無や葬式のあり方については、従来通り遺族と隣保長に一任する。

【掃除】◆賃貸マンション住人のみの隣保である20・21隣保は公民館の掃除を当分免除する。

◆区のゴミステーションを利用している賃貸アパート住人で、オーナーが区内に住まわれないところ（3アパート5棟）はゴミステーションの掃除を免除する。ただし、年末に徴収する環境整備費を一世帯500円→1000円に増額する。なお、これらの措置は関係箇所の掃除が滞らないようにするためのものです。

## 【お知らせ】

●12月の隣保長各種団体役員会議で今後の公民館の「改修工事」について意見交換をした結果、隣保回覧でもお知らせしたように特別積立金や財政積立金等の辻川区の蓄えは15年後を目途にした公民館建替え（新築）のために使い、現建物の耐震診断および耐震工事はバリアフリー化は実施しないことになりました。もちろん建て替えまでに必要な修繕は行います。

●年末年始に子ども会や商工会、消防OB会、旧やっこ会、そして老人会の協力のもと備品点検を兼ねて公民館や倉庫の大掃除をしました。放送室にあった多量の汲み取り便所用殺虫液や登記所跡倉庫の壊れたリアカーも処分しました。

●今回処分の判断ができたかった前神輿屋台の伊達綱や2階大広間の舞台にあるオーディオ機器、そして葬具については、来る4月総会で区民の皆さんにお諮りしたいと考えています。公民館等の大掃除は震災に備えた小さな取り組みでもあります。

## 事業報告

◆12月9日（土）隣保長・各種団体役員会議  
① 辻川区内要望書確認  
② 公民館耐震化工事について  
③ 自治会費等徴収について  
④ 公民館掃除・葬式の連絡  
⑤ 「辻川だより」第66号発行  
◆1月7日（日）

### ○冬えびす

冬晴れの中、多くの参拝者が地域の発展と平安を祈願しました。

### ○合格祈願祭

中学PTA主催の合格祈願祭があり、中学3年生とその関係者が参加しました。本殿のご祈禱の後、絵馬を奉納しました。

### ○公民館等備品整理

昨年末から子ども会、商工会、消防OB会、旧やっこ会、そして老人会の協力の下、長年保管してきた備品の点検と整理を行いました。

### ○とんど

宮当番の一年間最後のお務めです。四隣保の皆さん、一年間宮当番ご苦労様でした。



◆1月31日(水)

防災かまどベンチ設置訓練

辻川山公園で町職員、辻川区役員・消防団が参加して、ベンチのかまどへの転用訓練が行われました。



※この防災かまどベンチは、災害時に炊き出し用のかまどとして機能するベンチで一般社団法人兵庫県市町職員互助会の助成金を活用し、一昨年12月に設置されたものです。

◆2月3日(土)

節分 年越祭

新宮当番(五隣保)最初の祭儀である節分祭。「歳灯」の温もりは格別です。



辻川消防分団の皆さんも見守りお疲れ様でした。

◆2月11日(日)

初午祭

高藤稲荷で、五穀豊穡や商売繁盛を祈願して、初午祭が行われました。お稲荷さんが、宮当番によりきれいに飾りつけられました。定番の赤飯のおむすびと子ども相撲がなくなつて四年、来年こそ復活させたいですね。



公民館での催し案内

今、公民館で行われている区民対象の催しを紹介いたします。心も体もリフレッシュ！お気軽にご参加ください。

ふれあい喫茶

◇実施日

毎月第3水曜日  
10時～11時20分

◇世話人

辻川ボランティア

◇参加者

20名前後

※モーニングサービス200円

※若いファミリーにも来てほしい

ミニティサービス

◇実施日

毎月第3月曜日  
10時～12時

◇世話人

老人会役員

◇参加者

65歳以上20名

※内容：寄せ植え、布の干支置物(軍手の兎)、毛糸の靴下カバーなど

※食事会、クリスマス会も実施

※随時募集

ふくろう体操

◇実施日

毎週金曜日 13時30分～15時

◇世話人

老人会役員

◇参加者

20名前後

※内容：

健康チェック(血圧測定)、ストレッチ、筋力トレーニング



私の昭和の時代(第2話の②) 『小学校講堂に田原村図書館誕生』

前号からの続き・・・

◆「公民館長には、村随一の文化人、長谷川善雄<sup>※3</sup>氏に白羽の矢を立て村長ともども交渉したところ、『実務は全て私中村が代行する』という条件付きで、承諾してくれた」◆「こりあえず、元会議室を模様替えしてミニ図書館を開いた。全十二地区の区長と青年団長に依頼し、村中から古書籍の寄付を求めた。約二千冊ほど集まった」◆「図書への借りだしは無料にした。一日に、十人か十五人くらいの人が来たが、殆どが若い女性であった」◆「図書室だけで『公民館』という訳にはいかぬので、形式的な組織図を作り、色んなイベントや活動をすることにした。青年部長は志水という村の青年団長、婦人部長は京都でパーマ屋を経営している松岡鈴子<sup>※4</sup>さんという美人、体育部長は時計屋の生田時生さん、その他、文化部や産業部というように、名前と組織図だけはなかなか立派に出来上がった。実行したイベントは、村民運動会、映画会、産制講演会、料理講習会、農産品評会、新聞(「田原文化」)発行など、わりあい多彩であった」◆「こうして、公民館活動を楽しんで

いたところ、ある日、村長から『実は、昨日神戸の県庁へ行ってきた。優良文化町村として、武庫郡鳴尾村と我が田原村が県知事の表彰を受け、非常に名誉であった。これも、ひとえに君の努力のおかげである。ついで、今夕、ささやかな食事を差し上げたい』との話があった。『村役場(写真3)の近所にある「松井屋<sup>※4</sup>』という料亭で、私一人を村長と助役の二人が接待してくれた。田原村にはその当時料亭が二軒あった。『ますや<sup>※4</sup>』と「松井屋」で、どちらも村役場の近所である...」

いわゆる公立公民館は戦後の荒廃し混乱した社会状況の中で、新しい日本を築き上げるための社会教育の拠点になったそうです。とはいえこれもGHQ(連合国総司令部)の占領政策としてつくられたものでした。

「田崎 正和」

写真3 現 JA 福崎東支店地にあった田原村役場【歴民図解No.12「福崎記」】

※3 本家松岡最後の当主であった鈴子氏と長谷川善雄氏はいとこの間柄になる。鈴子の父愛次4代目辻川郵便局長)は善雄の祖父善次の三男。

※4 松井屋は松岡氏から高井氏に、ますやは松岡友吉氏から上原前田氏に経営者は変わったが、屋号は引き継がれた。松井屋については、明治7年の馬車道潰地絵図「町教委蔵」では土地の所有者が鈴子の曾祖父十郎に、大正8年の宿舍地図「辻川区蔵」では松岡堅次が世帯主になっている。

「参考・引用文献」  
柳の木とともに 田原小学校PTA (1980)  
「祭り祭の男」中村健(1990頃)  
長谷川善雄歴観 松岡秀隆(2008)

大募集

私の昭和の時代

投稿をお待ちしています。

編集後記

鈴の森神社やお稲荷さんの祭事は、辻川を語る上で欠くことができない大切なものですが、秋祭り以外はお参りの方が、年々少なくなつてきているような気がします。コロナ禍が明け、冬ごもりから動き出すときに、隣保独自の新たな試みがあつてもいいように思います。「柳田民俗学のふるさと」としての継承と工夫：共に模索していきたいですね。

ところで、「私の昭和時代」への投稿は今のところありません。残しておきたい「昭和」を是非お寄せください。

「吉田 和司」